



# 第3回 沢山地域復興まちづくり懇談会

(復興まちづくりの進捗状況)

～安全安心のまちづくりに向けて～

平成25年9月1日

大槌町 復興局 都市整備課

## 今回の説明内容

- ① 沢山地域の整備方針について
- ② 小中一貫教育校の整備について
- ③ 骨格道路の整備について
- ④ 住宅団地の整備について
- ⑤ 河川の改修について
- ⑥ スケジュールについて

# ① 沢山地域の整備方針

## ◆ 沢山地域のまちづくり

### 沢山地域の課題

- 道路が狭隘で安全性が低い
- 河川の内水氾濫

### 沢山地域の復興方針

- 三陸縦貫道大槌インターチェンジ まちの玄関口
- 文教拠点地区を創出（小中一貫教育校＋高校）
- 国道45号バイパス沿道は、住宅地と道路整備
- 避難施設や避難道路整備を行い、津波だけでなく、洪水、土砂災害に対応

- 1) 被災者の早期住宅再建
- 2) 小中一貫教育校の設置
- 3) 移転住宅地及び通学路等の道路の整備
- 4) 町管理河川の整備（氾濫対策）

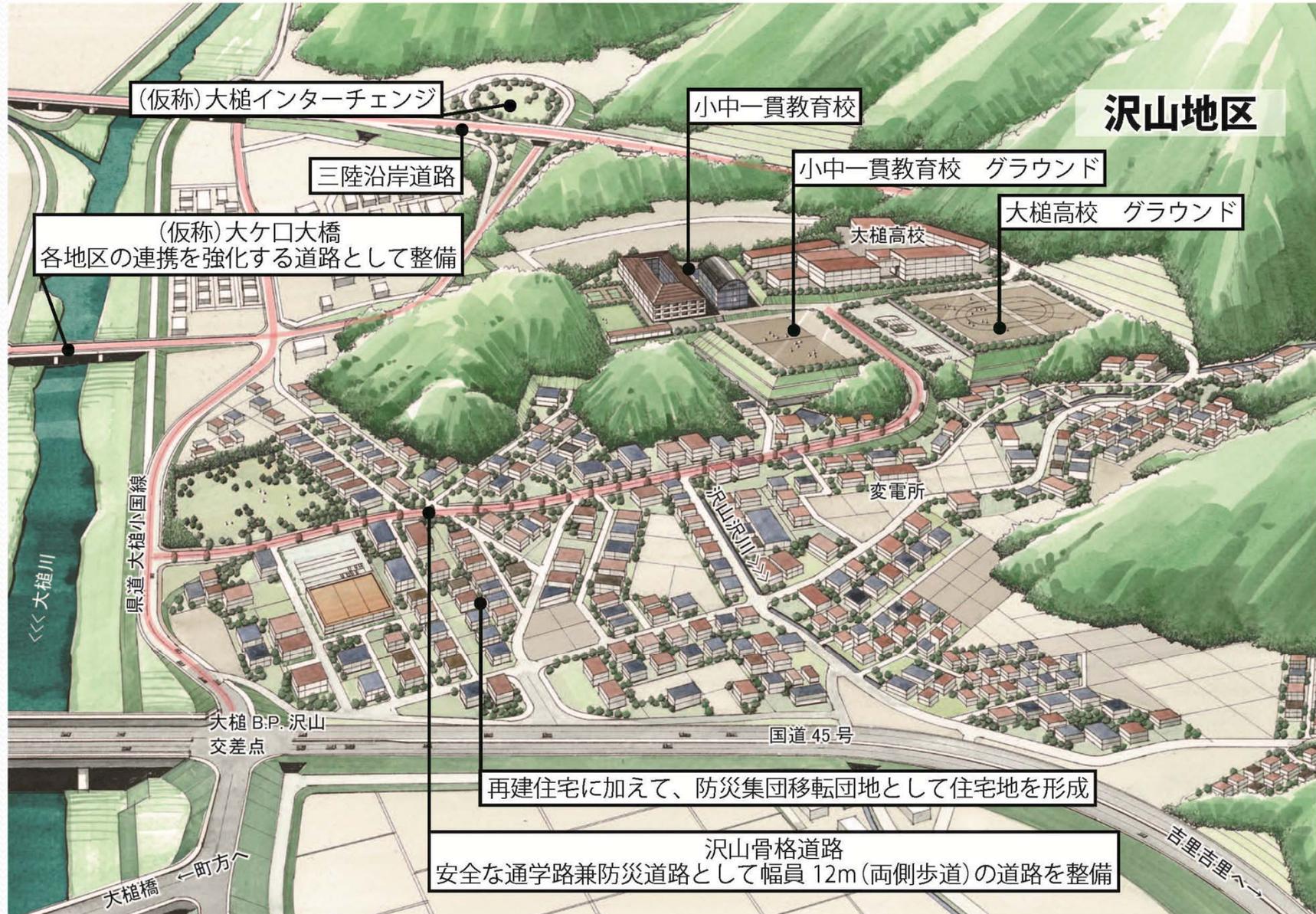
## ◆これまでの取り組み

### 経緯

- 平成24年7月 第1回沢山地域復興まちづくり懇談会
- 平成24年9月 骨格道路地権者説明会、骨格道路に係る測量調査を開始
- 平成25年1月 第2回沢山地域復興まちづくり懇談会
- 平成25年5月 小中一貫教育校整備に係る測量調査を開始
- 平成25年6月 旧大槌北小学校校舎等解体工事完了  
小中一貫教育校整備に係る地質調査を開始
- 平成25年8月 小中高PTAに対する一貫教育校整備の説明会  
(仮称) おおつち学園小中一貫教育校建設工事設計  
委託契約候補者決定
- 平成25年9月 第3回沢山地域復興まちづくり懇談会

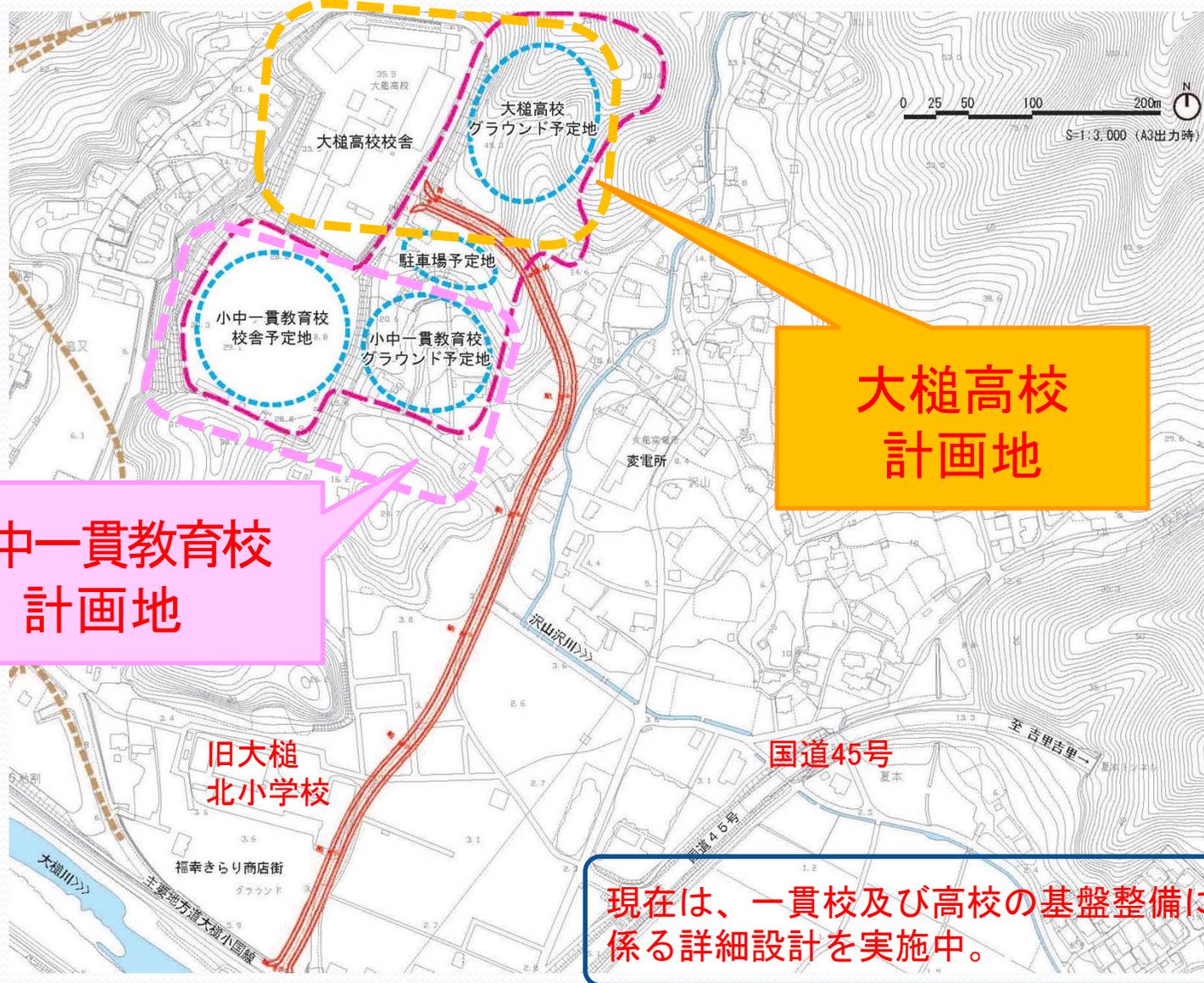


# ◆整備イメージ



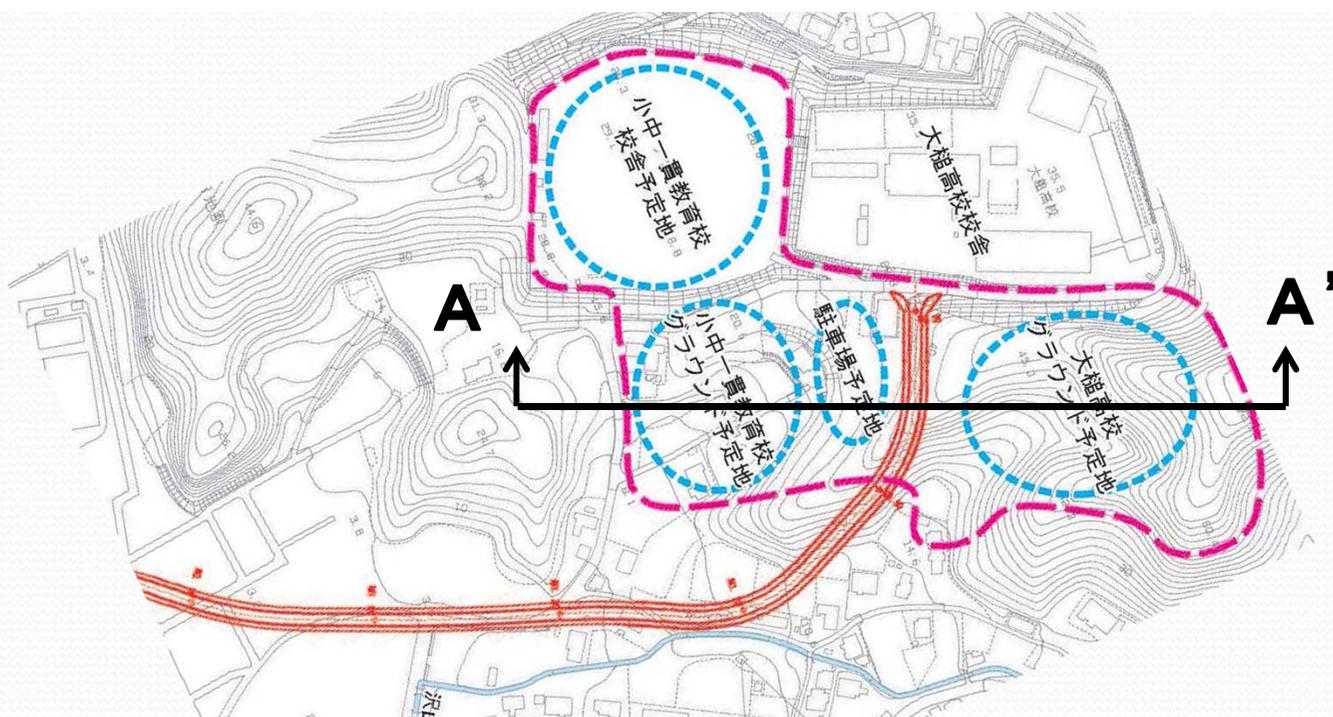
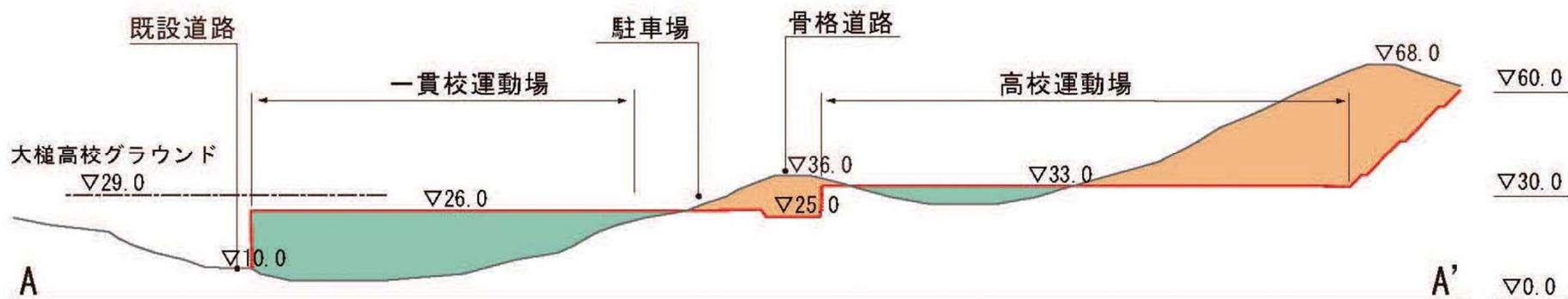
## ②小中一貫教育校の整備

### ◆小中一貫教育校の計画平面図



# ◆小中一貫教育校の計画断面図

A-A' 断面図



## ◆本事業の目的

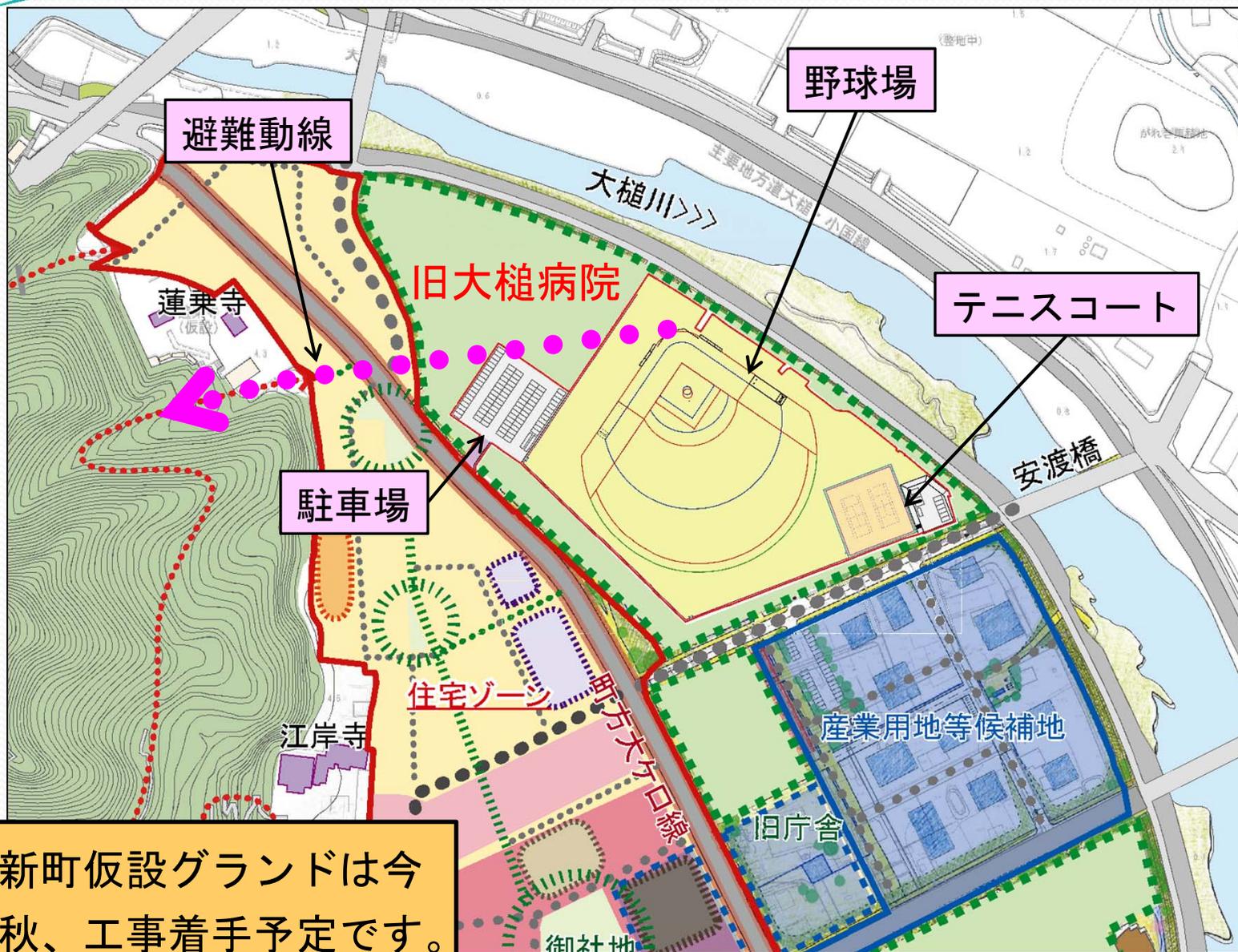
- 新大槌小学校及び大槌中学校の児童生徒は、今なお、応急仮設校舎での学習諸活動を余儀なくされており、1日も早い学習環境の改善が急務。
- 子どもたちの成長を連続してとらえ、一人ひとりをよく理解し、能力や個性を継続して伸ばす小中一貫教育を行うための一体型施設を建設し、**9年間をつなぐ自立した学びの場の創出**を目的としている。

## ◆校舎建設にあたっての基本方針(要点)

- 自然との調和を図りつつ、教育行政基本理念及び教育目標に基づき、9年間の学校生活において豊かな情緒を育み、**心の故郷(ふるさと)となる学校**とする。
- 単純明快で効率的な動線を確保した学校とし、校舎については、県内産の木材等を利用し、木の香る豊かな空間とする。
- 災害や犯罪に対して**安心・安全な学校**とし、防災拠点としての機能・設備を整備する。
- 小学生によるワークショップ「未来の教室を考えよう」の提言を踏まえる。



# ◆事業概要(新町仮設グラウンド)



新町仮設グラウンドは今秋、工事着手予定です。

## ◆事業概要(流れ)

### ・校舎建設

設計業者の選定

ワークショップ等の  
開催

詳細設計

校舎建設及び造成工事 着工

### ・運動場等の造成

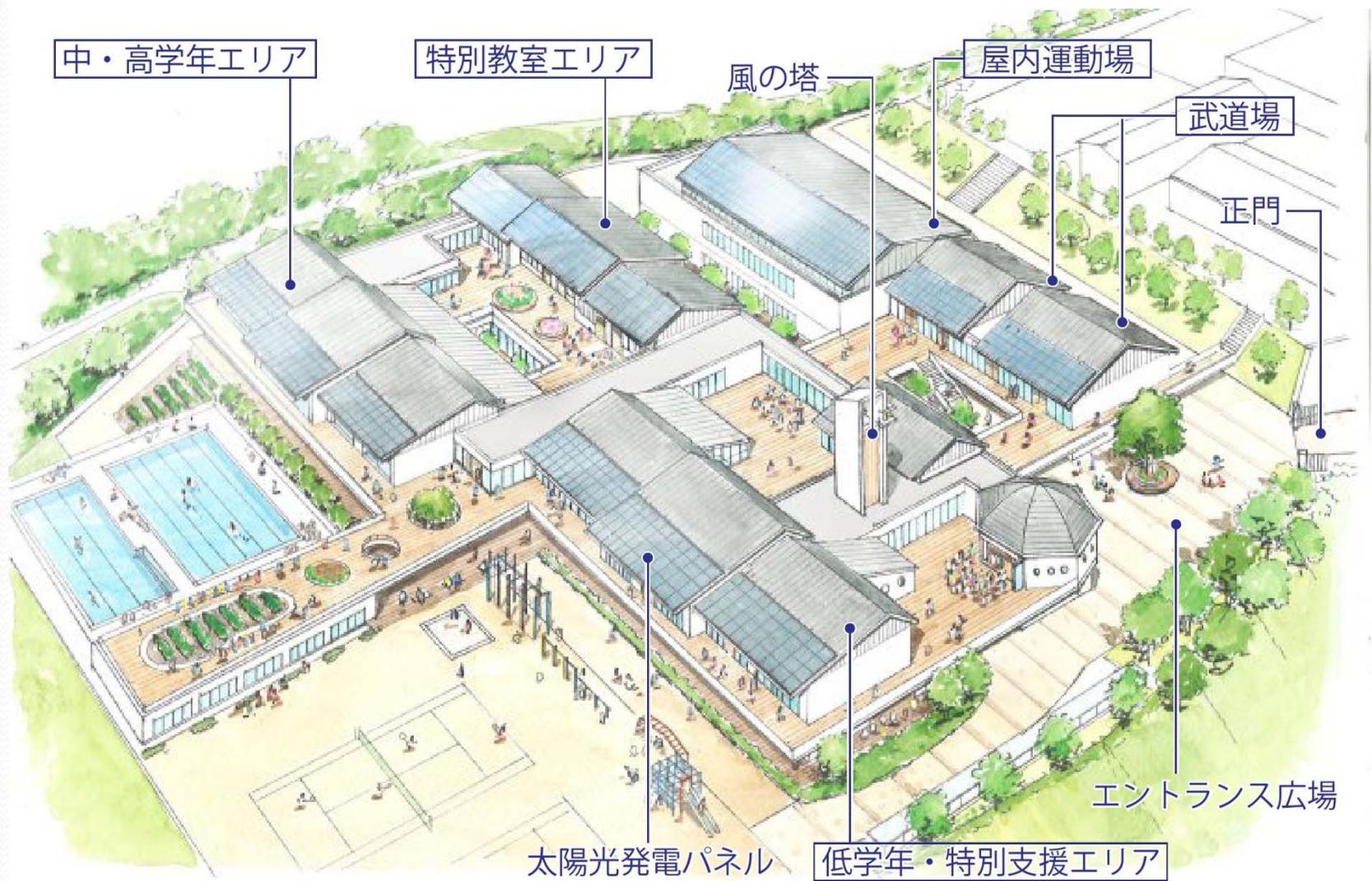
地権者様への説明

用地測量・用地交渉

用地買収

平成28年4月の開校を目指します！

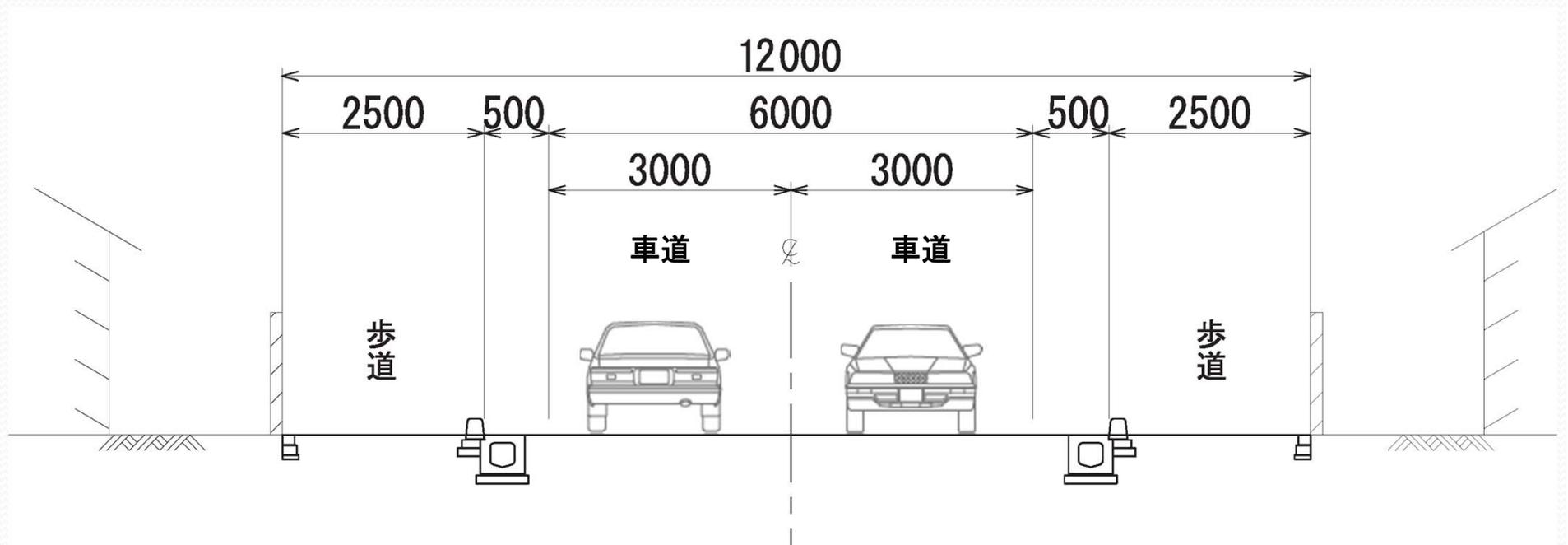
# ◆一貫教育校校舎の完成イメージ図





## ◆骨格道路の計画横断図

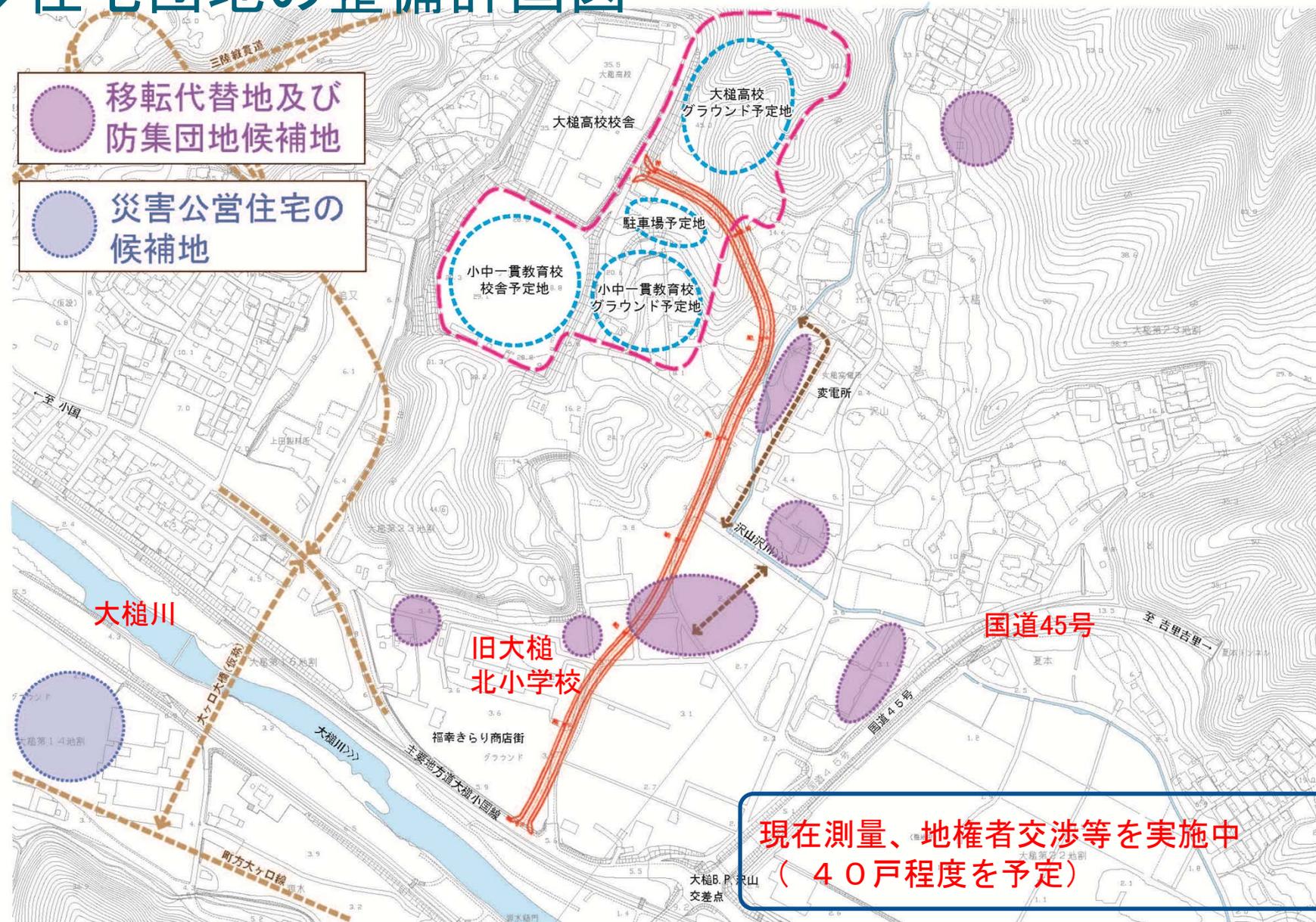
子どもたちが安心、安全に通学出来る歩道を設け、地域の防災道路としての機能も確保します。



注)法面が生じる区間は幅員13mになる  
(転落防止柵を設置するため)

# ④住宅団地の整備

## ◆住宅団地の整備計画図



## ⑤河川の改修

### ◆雨水排水対策の検討状況

- 骨格道路や移転住宅団地の整備に合わせて沢山沢川の改修などを検討しており、一部区間を骨格道路内において暗渠により整備する予定です。



# ⑥スケジュール

## ◆スケジュール(案)(小中一貫教育校)

区分	平成24年度	平成25年度		平成26年度		平成27年度	
	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半
調査・測量	→						
詳細設計		→					
用地交渉・契約		→					
造成工事				→			
建築物工事				→			
仮設グラウンド		→					
		北小校舎解体・ 仮設グラウンドの整備					

# ◆スケジュール(案)(骨格道路)

区分	平成24年度	平成25年度		平成26年度		平成27年度	
	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半
現況測量	→						
用地測量		→					
道路詳細設計		→					
建物(物件)調査		→					
用地交渉・契約	→						
道路工事				→			

# ◆スケジュール(案)(移転住宅団地)

区分	平成24年度	平成25年度		平成26年度		平成27年度	
	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半
用地交渉・契約							
実施設計							
団地造成工事							
住宅建築							

## ◆岩手県土地開発公社の紹介

- 事業実施に当たっては、岩手県土地開発公社に事業委託
- 岩手県土地開発公社の概要

所在地	岩手県盛岡市長田町6番2号 アバンサール <i>i</i>
設立の目的	公共用地、公用地等の取得、管理及び処分等を行うことにより、地域の秩序ある整備と県民福祉の増進に寄与することを目的とする。
根拠法律	公有地の拡大の推進に関する法律（昭和47年6月15日法律第66号）
設立団体	岩手県
基本財産	3,000万円（全額岩手県出資）
役職員	理事長 佐藤 文夫 職員数 26名（うち県派遣職員3名、埼玉県土地開発公社職員3名）
業務概要	公有地取得業務、土地造成事業、あっせん等業務 （うち三陸復興支援業務として、沿岸各市町村の復興事業、三陸沿岸道路用地取得業務を受託実施中）

## ◆岩手県土地開発公社が一体で事業を行う理由

- 用地取得から造成工事までの業務を一体的に受託実施できる体制が整っている県内唯一の団体であり、直営施行に伴うマンパワー不足をカバーできること。
- 復興支援として沿岸各市町村から複数の事業を受託実施しており、復興事業の促進に成果をあげていること。
- 民間企業に委託する場合と比較して経費削減が図られること。（事務費率が低率）
- 沢山地区事業を一体で委託することにより、事業の効率的施工が可能となり、完了までの期間も短縮されること。